

このホールでの演奏会、他のピアニストで2回経験。音響のよさ、微妙な音の重なりや微細な音楽の構造がくっきりと、まさにクリアランス。臨場感あふれ、極上のオーディオ装置真っ青。リストの「コンソレーション3番」、ゆったり余裕伸びやかなピアニスト、演奏前の説明ではウツリため息とのこと。ショパンの「スケルツォ2番」、演奏家の呼吸が間近で手に取る様に、次は如何とワクワクと期待して進行を見守る。40年前ミケランジェリさんのレコード、透き通った完璧な演奏、ゾクゾクとした戦慄を思い出す。爾来ライブやCDで何回か聴いているが、遠くの方で素敵に聞える作品だと、マンネリ化していた感覚を反省。ダイナミックな跳躍、流暢なアルペジオ、劇的なクライマックスの激しさなど。曲想の捌きだけでなく、颯爽と明るく楽しげに美しい旋律を奏でる。瑞々しい喜びを以って、聴き手も音楽の原点を再確認。

ムソルグスキーの「展覧会の絵」、8月末に大きなホールにて、本日のピアニストの演奏を聴く。同じ様にキャラ付けして弾き分ける。1曲1曲、楽譜を通して、イメージーションを巡らす。音楽院の催しの一環、聴き手の子供達に、物語をわかりやすく聞かせる様に、メリハリを付け脚色を加えパフォーマンス。

「プロムナード」、CMでもよく聴く知られたメロディー、聴き手はホッと安堵。数回のリフレイン画一的でなし、堂々たる闊歩、ほとぼり醒ます緩やかな流れ、元気ジルシのワクワク感……。 「卵の殻を……」、リズミカルで小刻みな動き、コミカルでユーモラスな踊り、茶目っ気のネジ巻、自然に微笑む。「カタコンブ」、薄気味悪い墓場の探索、一面の静寂、おっかなびつくりの肝試しでなく、観念的な大人向け空間。「キエフの大門」、これでもかとのハイテンションの念押し、精一杯のフォルテシモ、大音量で鳴り響く。強い音をキレイに演奏できるコト、音楽演奏の基本、忠実に子供達の手本となす。アブノーマルな絵画の世界、おどろおどろしいモンスターが跋扈、ギャットと一瞬のたじろぎ。(2014.10.21)

---

リスト：コンソレーション 3番 G.172-3

ショパン：スケルツォ 2番 変ロ短調 Op.31

ムソルグスキー：組曲「展覧会の絵」

(アンコール)

---

